

重点施策2 確かな学力を育む教育課程の編成と実施

【施策方針】

- 確かな学力の定着と向上
- 内面に根ざした道徳性の育成
- 個性の伸長、集団の一員としての自覚及び自主的・実践的態度の育成
- 自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決する能力や態度の育成

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 学習指導
- ② 道徳教育
- ③ 特別活動
- ④ 総合的な学習の時間
- ⑤ 外国語活動(小学校)
- ⑥ 情報教育

(2) 施策・事業の実施状況

① 学習指導

各校の学力向上推進主任を中心に、自校の実態と課題を踏まえた「学力向上推進計画」を立案し、学習指導の工夫・改善に取り組んでいる。各校でPDC Aサイクルによる仮説検証を行いながら、過去問題を活用するなどして全国学力学習状況調査や県学力診断調査や定着度確認テスト等の結果につながる指導を行っている。また、日々の授業の改善や指導力の向上を目指して、校内研修の充実に努めるように指導している。市教研の取組としては、小学校においては国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、体育、家庭の9部会、中学校においても、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語の9部会を編成し、全員がいずれかの部会に所属することとしている。

部会の運営については、第1回研究集会を4月15日に開催し、部会ごとの研究主題、研究推進計画を策定した。教科及び教科外の研究集会をそれぞれ6月24日と10月28日に開催し、研究授業、授業研究、研究発表等を行った。各部会ともテーマに迫る実践的な研修を行うとともに、確かな学力の定着と向上を目指した。また、11月5日には、第43回八幡浜市教育研究大会を八代ブロックを会場として行い、研究主題の迫る活発な協議が行えた

教育活動指導員の配置については、6校の小学校に配置し、少人数指導を行うことにより個に応じた学習指導の充実が図れている。学力向上対策の有効な対策のひとつとして評価できる。

② 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間

小学校においては、道徳教育上学年と下学年と特別活動の部会を、中学校においては、道徳教育と特別活動の部会を編成した。総合的な学習の時間については、各校の主任による小中合同部会を編成した。

部会の運営については、第1回研究集会を4月15日に開催し、部会ごとの研究主題、研究推進計画を策定した。第2回の研究集会を10月28日に開催し、実践発表や講師を招聘した研修等、各部会の主体性を生かした研究を行った。

次の学校等が研究指定を受け、園児・児童・生徒の生きる力の育成のために、すばらしい教育活動を展開した。

- 特色ある道徳教育推進事業（松柏中学校）
- 人権教育研究指定校（愛宕中）
- 授業のエキスパート（図工）養成事業（江戸岡小）
- 人権・同和教育訪問事業（保内幼稚園）

③ 外国語活動(小学校)

小学校において、各校の主任による外国語活動部会を開催し、授業公開等を通して、研究協議を行った。また、授業公開及び研究協議を行い、指導力の向上等に努めた。市教委として、外国語指導助手コーディネーターを継続採用し、ALTの効果的な活用や、小学校の担当教諭の指導力の向上、小学校4年生以下の英語教育に継続して取り組んでいる。次回学習指導要領の改訂にともなう小学校教育課程の英語科導入と小学校と中学校の英語学習の円滑な接続に向けて、教職員一人一人の研修が必要であり、環境整備に取り組んでいきたい。

④ 情報教育

各学校では、導入されているソフトウェアや自作資料を効果的に活用した分かる授業づくりに努めている。一方で、情報モラルの育成についての対応が急務となっている。そこで、各学校においては、児童生徒への指導はもちろんのこと、教職員研修や保護者啓発にも力を入れている。

また、特色ある学校の取組について、各小・中学校のホームページ（CMSサイト：H24 整備）を活用した積極的な情報発信をお願いしてきたところであるが、市内全ての学校で、充実した内容になっており、保護者や地域から高く評価する声も聞こえるようになってきた。

【学識経験者意見】

- 各校の学力向上推進主任を中心に、自校の実態と課題を踏まえ、学力向上推進計画に則り、学習指導の工夫・改善がなされ、「全国学力学習状況調査」の結果からも着実に成果を上げている。さらに「分かる」・「考える」・「伸びる」授業の実践に力を注ぎ、児童生徒の学力の定着向上と教職員の指導力・授業力の向上に努めてほしい。
教育活動指導員の配置については、個に応じたきめの細かい学習指導がなされ、保護者・地域の願いに応えるものとなっていると感じている。
- 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間については、各学校での取組を充実させることはもちろんのこと、市教研の各部会との連携を深め、心に響く道徳教育、集団活動を通した望ましい人間形成を育てる特別活動、自己の生き方を考えることができる総合的な学習の時間となるよう指導の充実を図ってほしい。

【自己評価】

- 愛媛県が提唱してきた「学力向上5か年計画」も大詰めを迎えている。これまで、学力向上推進主任を核として、分かる授業の実現を目指した指導方法の改善や主体的な学びを促すための授業のユニバーサルデザイン化等、各学校で特色ある学力向上の取組がなされ検証を重ねてきた。これまでの実践を礎として、各校独自のPDCAサイクルによる子ども達一人一人の学びの保障を支援していきたい。
- 一斉授業等の集団学習の中で、特別な配慮を要する児童生徒が少なからずいる。こうした児童生徒の学習を支援するために、小学校を中心に教育活動指導員と生活支援員が配置されているが、各学校でより有効的に活用されるよう研修を充実する必要がある。
- 年間指導計画の見直しについて指導し、市教委への提出を義務付けている。学習指導要領に示されている各教科や領域の趣旨を十分踏まえた内容になっているか検討し、系統のかつ統合的な取組となるよう指導している。
また、松柏中学校の道德教育、愛宕中学校や保内幼稚園の人権教育の研究の成果を市内の各幼・小・中学校で共有できるようにしていきたい。
- 教育活動全体を通じて地域人材を積極的に活用し、人や環境とのつながりをとおして地域に生きる喜びを感受し、地域の中かで明るくたくましく生きる力を育てている。